

花咲か通信

第4号



「むかし懐かしい味。忘れられない思い出」



平成24年7月27日(金)「回想法体験スクール3日目」が開催され「お勝手の思い出」について話し合いました。

今回は、いきいきくらぶ榎会場のボランティアの神山さん、西区南部いきいき支援センターの醍醐さん、西区役所企画経理室の福島さんにも参加をしていただき、さらに華やかな会になりました。

思い出を楽しく語り合った回想法体験スクールも次回が最終回です。ラストは回想法体験スクールをふりかえり、懐かしいお菓子づくりに挑戦します。さて出来上がりは如何に・・・次号をお楽しみに。



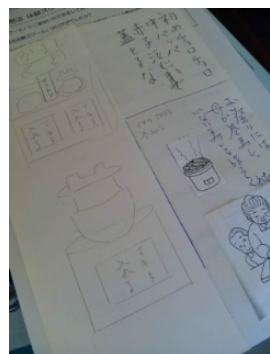
懐かしい味。カルメ焼き作りに挑戦します！

Topic vol.13

はじめちよろちよろ なかぱっぱ・魔法の呪文のような言葉



「はじめちよろちよろ なかぱっぱ あかごないても ふたとるな」この魔法の呪文のような言葉は「お勝手の思い出」で参加者さんが「釜戸でうまくご飯を炊くコツ」だと絵を描いて教えて下さったものです。火加減は、始めはとろ火で中ごろは強い火で炊き、途中でどんなことが起きても蓋を取ってはいけない、という意味があるそうです。薪をくべ、お釜で丁寧に炊いたあたたかいご飯は、おこげの部分がとても美味しいとの事。一度食べてみたいと思いました。



お腹がすいてきそうな一時でした。

西区南部いきいき支援センター 醍醐(だいが)さん

回想法体験スクールを体験した

- 「はじめちよろちよろ なかぱっぱ あかごないても ふたとるな」
- 予約スイッチを押せば、炊飯ジャーが時間通りにご飯を炊いてくれる今の時代・・・確かにとても便利な世の中ですが、生活全てが忙しく気持ちのゆとりがなくなってきたような感もあります。「おくどさん(かまど)」の思い出、小豆を炊いて家族皆でおはぎを作ったこと、川で魚をとって佃煮にしたこと・・・参加者の方々のお話しをお聞きしながら家族揃っての和やかな食事風景を思い浮かべ心が温くなりました。
- ちなみに三十数年前(?!)山盛りのジャガイモコロッケを母と一緒に作ったことを思い出した北海道出身の醍醐でした。

「たまり」の味や「箱寿司」の具材には それぞれ我が家の味がありました。 「お勝手」にはいつも家族の笑顔と 大切な思いがいっぱい詰まっています。

次回の回想法体験スクールは
10月26日から開始します。
参加希望の方はご連絡ください。
お待ちしております。

回想法体験スクール」3回目。今回は「お勝手の思い出」について語り合いました。
お風呂に入る時、ご飯を食べる時に各家庭で「順番」や「きまり」があったそうです。
今回も参加した感想をいただいていますので、ここで紹介させていただきます。

幼かった頃の食事が思い出された。
手作り押し寿司・よもぎまんじゅう・イナゴの佃煮など。

私の家では、かまどに薪をくべお釜で炊く麦入りごはん。
毎年お祭りの折には母が作ってくれた沢山のいなり寿司・巻き寿司。
春・秋の彼岸には小豆から炊きあげた餡子のおはぎ・きなこのおはぎ。

今年は母を偲んでおはぎを作り孫に食べさせたいなど、そんな思いが
湧き起ってきました。

このようなアイデアが浮かんだのも花咲か隊に
参加したお陰と感謝の気持ちです。
あとは実行あるのみです。



▲ ひな祭りの時に使った
「おちょこ」だそうです。
お内裏様とお雛様の絵が
入っています。

昔のお勝手を思い出し、
大変楽しかったです。

花咲か隊の回想法で脳が活性化されました。
他の皆さんにも参加してほしいです。

現代はすべてに進んで良いですが、昔の人情味
ある生活も、とてもよかったですと思いました。

ほとんどの物を自給自足でまかない、どんな食物でも「おいしい・
おいしい」と言って家族と一緒に手を合わせ「いただきます」
「ごちそうさま」と声を合わせて言っていた事を思い出しました。



▲ 現在はほとんど出番がなくなっ
てしまいました。

回想法体験スクールも3回目となり、皆さんと昔からお友達のような
雰囲気の中で話しが弾み、今回は台所の様子など話をしました。
私たちの生活は戦後、環境をはじめ身の回りのすべてが著しく変化し
ました。

お勝手場には洗い場とオクドがあり、薄暗い裸電球の下で土間に立っ
て母が炊事をしていました。オクドは茶釜・お釜・煮物鍋用の3個があり、中でつながって火が
まわるようになっていました。煙突のない所では「すす」で廻りが真っ黒だったそうです。
でも焚き物で炊いたご飯はとてもおいしかったです。

その後、電化製品が普及し電気は蛍光灯になり、炊飯器・ガステーブルなどで食事の支度が出来
るようになりました。どんなに便利になったことでしょう。

しかしながら、あのころ夕食でちゃぶ台を囲み、家族揃って色々話をしながら食事をした思い出
は懐かしく思います。

おやつに大豆を石臼でひいて出来たきな粉の餅やこうせん（焙煎した大麦を粉にしたもの）カル
メ焼きなどがありました。ほとんど家庭で手づくりされたものでした。

皆さんで話し合ううちにどんどん昔に戻った気がして、とても楽しいひとときでした。

今は家族と一緒に食事をする時も少なく、最近是一家団欒という言葉が死語になりつつあります。
夫婦・親と子の会話が足りないと感じます。家族が話をする機会が多いと暴力を振るう子どもも
なくなるのではないのでしょうか。今回この会の仲間に入れていただき有難うございました。